

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

事業名 一般国道6号 <small>ひたち</small> 日立バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 関東地方整備局										
起終点 自： <small>いばらぎ ひたちしあさひちよう</small> 茨城県日立市旭町 至： <small>いばらぎ ひたちしじりちよう</small> 茨城県日立市田尻町	延長 4.7 km											
事業概要 一般国道6号は東京都中央区を起点として、水戸、日立等の主要都市を通過し仙台市に至る延長約370kmの主要幹線道路である。 日立バイパスは、国道6号バイパスの一部を形成し交通混雑緩和や安全性確保などを目的に進めている延長4.7kmのバイパス事業である。												
S52年度事業化 S59年度都市計画決定 S61年度用地着手 H2年度工事着手												
全体事業費 約520億円 事業進捗率 58.7% 供用済延長 3.1km												
計画交通量 31,500台/日												
費用対効果分析結果 <small>(※1)</small> B/C <small>(事業全体)</small> 2.1 <small>(残事業)</small> 3.3	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 164/268億円 事業費：148/251億円 維持管理費：17/17億円	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 550/550億円 走行時間短縮便益：481/481億円 走行費用減少便益：55/55億円 交通事故減少便益：14/14億円										
基準年 平成15年												
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（渋滞緩和により日立電鉄バス等公共交通の利便性向上が期待される） ・物流効率化の支援（特定重要港湾日立港へアクセス向上が見込まれる） 他5項目に該当												
関係する地方公共団体等の意見 日立BPは、地域の活性化、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、日立都市圏幹線道路建設促進期成会（日立市、常陸太田市、十王町、東海村）より本省・地整に早期整備の要望												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 田尻土地区画整理事業の完了により、市街地の交通渋滞が深刻化している。												
事業の進捗状況、残事業の内容等 海岸部を通過するため、構造形式・施工方法の検討（委員会形式）、海岸法等の承認、漁業補償協議に時間を要したが、平成15年5月までに3.1kmを部分暫定供用している。												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成9年度までに構造形式・施工方法の検討および必要な協議等が整い、平成9年より海岸部工事に着手しており、平成19年度の全線暫定供用予定である。												
施設の構造や工法の変更等 旭高架橋の施工にあたり、仮消波帯と工事用道路を兼用するなど工期短縮、コスト縮減を図っている。												
対応方針 事業継続												
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。												
事業概要図												
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td colspan="2">凡 例</td></tr> <tr><td>■</td><td>供 用 中</td></tr> <tr><td>▨</td><td>再 評 価 箇 所</td></tr> <tr><td>▩</td><td>う ち 供 用 中</td></tr> <tr><td>○ ○ ○ ○</td><td>調 査 中</td></tr> </table>	凡 例		■	供 用 中	▨	再 評 価 箇 所	▩	う ち 供 用 中	○ ○ ○ ○	調 査 中		
凡 例												
■	供 用 中											
▨	再 評 価 箇 所											
▩	う ち 供 用 中											
○ ○ ○ ○	調 査 中											

(※1) 事業全体の費用便益分析は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。
 ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。